

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	生活路線代替バス運行費				
担 当 課 係 名	企画政策 課		企画政策 係	作成者	運藤良克
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち			総合計画の ページ
	基本計画	公共交通の利便性の充実			
	主要施策	交通手段の充実と確保			34
予 算 費 目	一般 会計	2 款 総務費	1 項 総務管理費	9 目 交通政策費	
事 業 期 間	平成 18 年度 ~ 平成 20 年度		新規 / 継続の区分		継続
性 質 区 分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				
根 拠 法 令 等	仙北市民バス条例、仙北市乗合タクシー運行事業費補助金交付要綱、秋田県生活バス路線等維持費補助金交付要綱 など				
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運 営 方 法	☐ 直 営 ☒ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象（誰のため・何を）	羽後交通路線の廃止に伴い、他に交通手段を持たない地域住民のために交通手段を確保する。
事業の目的・意図（どういう状態にしたいのか）	路線廃止に伴い、生活の交通手段として利用しやすい路線、ダイヤを設定し、安全な運行と利便性の向上を図る。
事業の内容（どのような業務、活動を行うのか）	市民バス（3路線）、デマンド型乗合タクシー（1路線）の安全運行と乗車人員の増加を目指す。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	運行回数	目標	回	5,390	6,324	6,805	
			実績	回	5,390	6,246	6,762	
			達成度	%	100.0%	98.8%	99.4%	
	成果指標	市民バス乗車人員	目標	人	55,000	55,000	55,000	
			実績	人	45,436	48,844	55,272	
			達成度	%	82.6%	88.8%	100.5%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				20,912	20,287	20,511	
	人 件 費 (B)		—		1,571	1,614	1,585	
	職 員 数	—		0.20	0.20	0.20		
		職 員 平 均 人 件 費		—	7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				22,483	21,901	22,096	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金				6,278	6,466	6,029
		地 方 債						
		そ の 他				3,107	1,365	1,154
		一 般 財 源				13,098	14,070	14,913
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		4,171	3,506	3,268
		市民1人当たりのコスト(円)		—		705	697	712

【事務事業の今までの成果】

羽後交通の路線廃止に伴い、地域から交通確保について要望があり、市民バスとして運行している。また、白岩地区については、デマンド型乗合タクシーとして運行している。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	県の補助制度が平成22年度から改正される予定であり、生活バス路線への補助が該当しなくなる路線が増える可能性がある。このことにより、廃止路線が増えることになるため、市としての対応が必要になる。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	廃止路線の交通確保についてはもちろんのこと、交通空白地域からの要望がある。また、既存の路線についても、より使いやすい経路、ダイヤ等の要望がある。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	A 現状のまま継続（実施）	乗車人員については、目標をクリアしているが、これは、白岩地区のデマンドが加わったことによる。一方、投入している一般財源については、年々増加傾向にあり、指定管理の方法等について検討が必要。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

市民バスについては、市の直営（運転業務委託）と指定管理、デマンドについては補助金と3種類の事業の形態があるので、より効率的な方法について検討が必要である。また、交通空白地域への交通確保についても、デマンド方式等の導入について検討が必要。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	各路線の実情に合った効率的な運行形態を検討し、改善を図りながら継続すべきと考えます。

一次評価診断図

